

議案第 12 号

小城市重要文化財の指定に係る諮問について

このことについて、別紙のとおり提出する。

令和 5 年 10 月 26 日提出

小城市教育委員会 教育長 大野 敬一郎

提案理由

小城市文化財保護条例第 4 条第 3 項の規定に基づき、小城市文化財保護審議会に指定について諮問したいので別紙のとおり提出する。

これが、本議案を提出する理由である。

令和5年10月26日

小城市教育委員会 様

申請者（住所）小城市小城町松尾 588 番地

（氏名） 宗教法人円明寺 脇山正舜

文化財指定申請書

別紙のとおり申請しますので、文化財として指定下さるようお願いいたします。

記

木造弥勒仏坐像 1 軀 （所有者 円明寺）

木造阿弥陀如来坐像 1 軀 （所有者 円明寺）

小文第 号
令和5年 月 日

小城市文化財保護審議会
会長 藤口悦子 様

小城市教育委員会

小城市重要文化財の指定について（諮問）

時下、貴職におかれましては益々ご健勝のことと存じます。また、日頃から本市の文化財保護につきましてはご指導とご鞭撻を頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび下記の文化財につきまして小城市文化財保護条例第4条に基づき小城市重要文化財として指定したいと存じますので、別紙の項目について調査、審議して頂き、指定にふさわしいものかどうか答申をお願いいたします。

記

文化財名（所有者及び管理者）

木造弥勒仏坐像	1 躯	
木造阿弥陀如来坐像	1 躯	（所有者：円明寺）

(別紙)

- 1 文化財の種別
- 2 文化財の名称及び員数
- 3 文化財所在の場所
- 4 文化財の所有者又は権原に基づく占有者の氏名又は名称及び住所
- 5 文化財の構造、型式、材質、大きさ、重さ、銘、その他の特徴
- 6 文化財製作の年代
- 7 文化財に関する由来、伝承等
- 8 その他参考となるべき事項
- 9 審議会の意見
- 10 添付書類 (1) 写真、(2) 一覧表



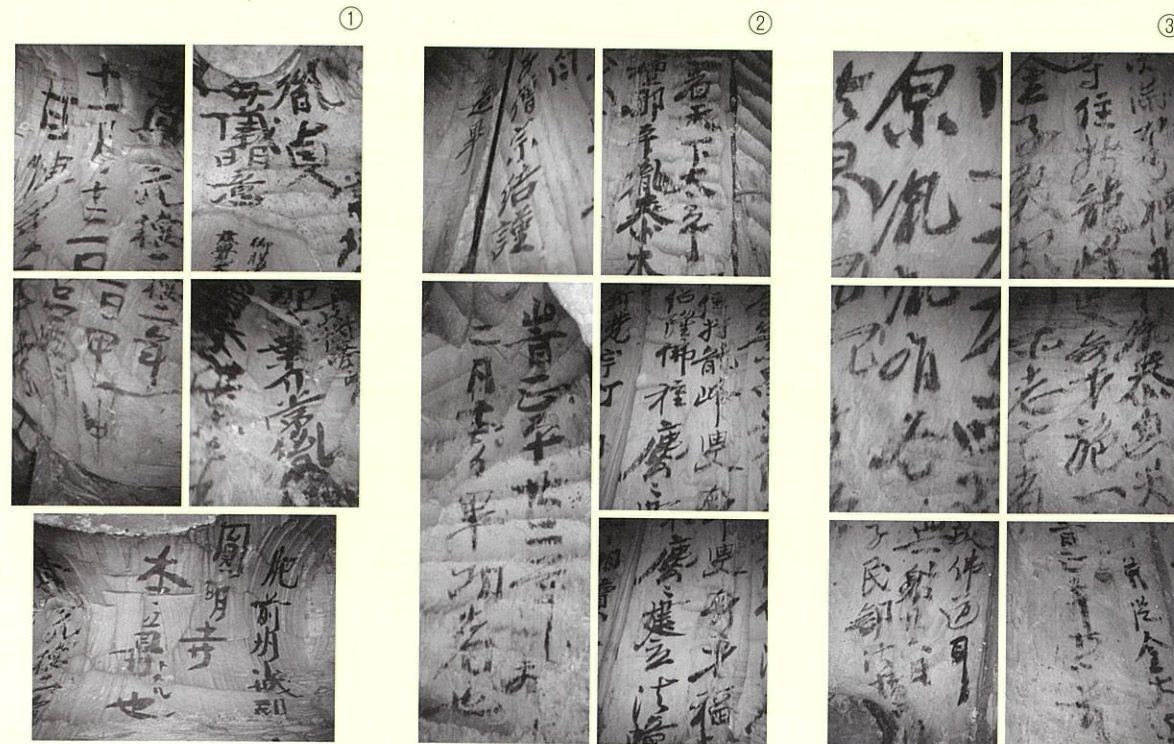
木造地藏菩薩坐像 円明寺蔵 元徳元年(1329)以前 像高87.8cm



木造弥勒仏坐像 円明寺蔵 正平22年(1367) 像高84.8cm



木造阿彌陀如来坐像 円明寺蔵 正平24年(1369) 像高86.5cm



円明寺三尊像像内墨書銘赤外線写真(①木造地藏菩薩坐像、②木造弥勒仏坐像、③木造阿彌陀如来坐像)

◆ 円明寺と肥前千葉氏

小城市小城町松尾の天台宗寺院・靈驗山円明寺は、千葉城の麓にあり、千葉氏の影響を受けていた寺院である。円明寺には、地藏菩薩・弥勒仏・阿彌陀如来の三尊を組み合わせた中世の仏像が祀られている。これらの仏像には像内墨書銘が確認されており、従来から、その内容が千葉氏に関わるものであることが指摘されていた。今回国立歴史民俗博物館の共同研究による調査により、改めて三尊の調査が行われ、あわせて赤外線写真撮影と肉眼による像内銘の調査が行われた(二〇一九年九月八日調査)。今回の展示では、その調査成果の一部を紹介し、肥前千葉氏と円明寺の関係について紹介する。

現本尊の地藏菩薩坐像①は、像内銘により元徳元年(一三二九)以前の作で、像高八七・八センチメートル、寄木造り。脇侍二軀のうち、弥勒仏坐像②は、像内銘により正平二十二年(一三六七)の作で、像高八四・八センチメートル、寄木造り。阿彌陀如来坐像③は、像内銘により正平二十四年の作で、像高八六・五センチメートル、寄木造り、ただし体部は平安時代の古仏を修理し頭部を南北朝時代に造像したものと思われる。以上が像容の基礎情報である。

現在までに読み取れる各墨書銘は、巻末の史料釈文に掲載した。基礎的な事柄を指摘すれば、①では、この像が元徳年間(一三二九〜三二)に千葉胤貞と母明恵により円明寺に安置されたこと、像は「博多管崎」(筑前国管崎)から円明寺に移送されたこと、それ以前は山城国愛宕郡や南都(興福寺)・北嶺(延暦寺)と関わりがあったこと、などが読み取れる。②③はともに、千葉(平)胤泰の福寿・息災を祈念して作成されたもので、年号から当時胤泰が南朝に与っていたらしいこともわかる。また③には、「原胤有」の幽霊の記述もある。原氏は千葉氏被官(家人)として下総から移住してきた氏族で、「原胤有」は岩蔵寺過去帳にも記載されている人物である。さらに②③ともに「住持」として「龍峰叟奇才」なる僧侶の名が、仏師として②に「僧宗結」、③に「民部法橋」某の名がみえる。

これらから、この三尊の成り立ちと千葉氏・原氏との関わり、また千葉氏と円明寺との関わりが明らかとなる。ただし、像内銘はきわめて難読で不明な点も多い。そのほかの貴重な情報とともに、さらに詳細な検討や銘文の確定は今後の課題としておきたい。

(湯浅治久)

文化財の概要

1 文化財の種別

彫刻

2 文化財の名称及び員数

木造弥勒仏坐像 1 軀

木造阿弥陀如来坐像 1 軀

3 文化財所在の場所

小城市小城町松尾 588 番地 円明寺

4 文化財の所有者又は権原に基づく占有者の氏名又は名称及び住所

宗教法人 円明寺 小城市小城町松尾 588 番地

5 文化財の構造、型式、材質、大きさ、重さ、銘、その他の特徴

木造弥勒仏坐像

寄木造り、像高 84.8cm、像内墨書銘あり

木造阿弥陀如来坐像

寄木造り、像高 86.5 cm、像内墨書銘あり

6 文化財製作の年代

南北朝時代

[木造弥勒仏坐像：正平 22（1367）年、木造阿弥陀如来坐像：正平 24（1369）年]

7 文化財に関する由来、伝承等

小城市小城町松尾に所在する霊験山円明寺は、天台宗の寺院である。円明寺には、木造地藏菩薩半跏像 [佐賀県重要文化財 昭和 58（1983）年 3 月 22 日指定]・木造弥勒仏坐像・木造阿弥陀如来坐像の三尊を組み合わせとする中世の仏像が祀られている。これらの仏像には像内墨書銘が確認されており、従来からその内容が千葉氏に関わるものであることが指摘されていた。

これまでの調査で判読された像内墨書銘からは、木造地藏菩薩半跏像は、元徳年間（1329～1332）に千葉胤貞と母明恵により円明寺に安置されたこと、像は「博多管崎」

(筑前国筥崎) から円明寺に移送されたこと、それ以前は山城国愛宕郡や南都(興福寺)・北嶺(延暦寺)と関わりがあったこと、などが読み取れる。

木造弥勒仏坐像、木造阿弥陀如来坐像はともに、千葉(平)胤泰の福寿・息災を祈念して作成されたもので、年号から当時胤泰が南朝に与していたらしいこともわかる。また木造阿弥陀如来坐像は、「原胤有」の幽霊との記述もある。原氏は千葉氏被官(家人)として下総から移住してきた氏族で、「原胤有」は岩蔵寺過去帳にも記載されている人物である。

さらに木造弥勒仏坐像、木造阿弥陀如来坐像ともに「住持」として「龍峰叟奇才」なる僧侶の名が、仏師として木造弥勒仏坐像に「僧宗結」、木造阿弥陀如来坐像に「民部法橋」其の名がみえ、この三尊の成り立ちと千葉氏・原氏との関わりや、千葉氏と円明寺との関わりを知ることができる。

8 その他参考となるべき事項

- (1) 令和元(2019)年9月8日に、国立歴史民俗博物館の共同研究による調査の一環で改めて3軀の調査が行われ、あわせて赤外線写真撮影と肉眼による像内銘の調査が行われた。

この調査によって判読された釈文は参考資料に添付している。

- (2) 木造弥勒仏坐像は、体部を平安時代の古仏を修理し頭部を南北朝時代に造像したものとみられる。

9 参考文献

- ・「木造地蔵菩薩像」『小城の歴史』第29号(1984)小城郷土史研究会 志佐惲彦
- ・『企画展示 中世武士団―地域に生きた武家の領主―』(2022)国立歴史民俗博物館

10 参考資料

- (1) 円明寺位置図

- (2) 写真

木造地蔵菩薩半跏像・木造弥勒仏坐像・木造阿弥陀如来坐像
像内墨書銘

- (3) 像内墨書銘

※(2)・(3)は『企画展示 中世武士団―地域に生きた武家の領主―』に加筆転載

(1) 円明寺位置図



● 円明寺

(2) 写真



木造地藏菩薩半跏像



木造弥勒仏坐像



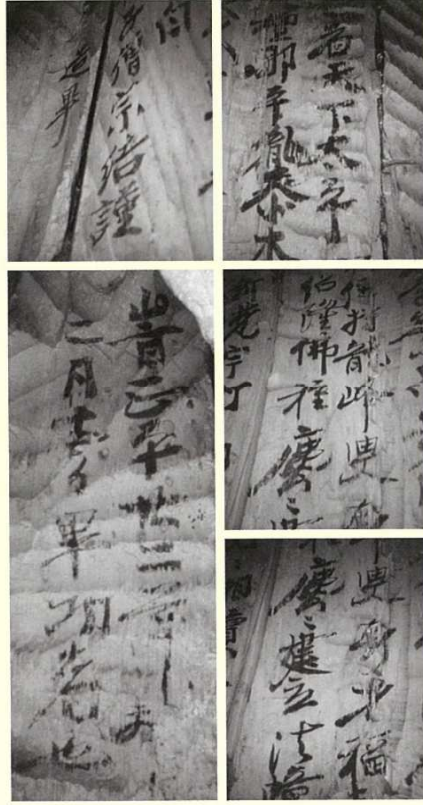
木造阿弥陀如来坐像

①



①木造地蔵菩薩半跏像

②



②木造弥勒仏坐像

③



③木造阿弥陀如来坐像

(3) 像内墨書銘

①木造地藏菩薩半跏像

(1) 像内膝前部墨書銘

□立^(慈カ)方^(身の上に承ね書き)「德」元年 北嶺^{ヨリ}

南都ニ移^ル

九州^江

四月

十六

日

(2) 同右

肥前州小城郡

円明寺

本尊^{トスル}也

(4) 像内背面部墨書銘

以此功德衆□

悉除身心安樂

常胤八代孫

胤貞

母儀明意

□平^(以カ)生願力所建立也

弘仁九年□□清高命命道^(八一八)

元德元年千葉□□弘^(三二九)

円明寺ニ安置

(5) 像内腹部墨書銘

願興山城国愛宕郡

大檀那千葉介常胤

□□円満□□

大願主住持処断

北嶺移南都ニ至^ル

(6) 背面裏後補付墨書銘

御腹中書付雖右趣軍火^{ニテ}委細目□

慈覚大師円仁之正作愛宕山^{ニテ}五□

奉安置本堂

自博多筥崎

十一月十三日甲申

再興 元德二年^(一三三〇)

(3) 同右(2)の左部。異筆カ

②木造弥勒仏坐像

右志趣者天下太平四海静謐殊祈

本寺大檀那平胤恭本命元辰增福寿

武門長久子孫繁荣正直聰明皈依禅宗

奉造立慈氏尊仏之像壹体

次祈本寺繁昌興隆仏法広作仏事

殊祈住持龍峰叟奇才福寿増長

処々紹隆仏種塵々建立法幢柄子輻奏利々

施利益国々新梵宇灯々相続令続龍卒之暁住持僧龍峰

励一力令成就

皆正平廿二年(一三六七)二月彼岸初十七遂畢、

住持僧奇才敬白

仏子僧宗結謹

造畢

皆正平廿二年

二月十日(五カ)畢功者也、

③木造阿弥陀如来坐像

奉造立弥陀(坐)像一体右趣(旨カ哲カ)天長地久

御願円満本尊檀那平胤恭息災延命(朗カ)

并本寺住持龍峰叟(奇)才施一力(奉)

并金子殿家行所志亡者実

南一房西阿弥陀仏并結縁長阿弥陀仏

原胤有各々幽霊塗師小二郎男乃至

法界現生平等利益已

別還珠大(釈カ)忘尼

并從全大(金カ)(澤カ)(福)皈成仏道耳

皆正平廿四年(一三六九)西無射廿六日

仏子民部法橋(家カ)

(弥勒仏坐像)



(阿弥陀如来坐像)

